

九州佐賀国際空港の利用者の特徴と旅行行動 －上海便の聞き取り調査から－

公益財団法人アジア成長研究所 教授・研究部長 戴 二彪

1. はじめに

近年の日本において、経済成長の低迷と産業構造転換への模索が続く中、インバウンド観光産業の成長は大きく期待されている。日本政府は、2003年から「ビジット・ジャパン事業」を本格的に始め、2006年12月に「観光立国推進基本法」を成立させた。地域経済の活性化、雇用機会の創出、国際相互理解の増進等に資する「観光立国」戦略は、日本の21世紀の国づくりの柱として位置付けられている。

政府の「観光立国」戦略の本格的推進に伴い、各地方自治体も、訪日外国人旅行者の誘致を地域振興策・地域創生策の柱の1つとして重視しつつある。特に、14億の人口を有する新興経済大国中国をはじめ、急速な経済成長と所得上昇を続けてきたアジア諸国の観光市場としてのポテンシャルが注目を集めている。九州では、「総合特別区域法」に基づき、2012年9月に九州7県と福岡市、及び九州観光推進機構が「九州アジア観光アイランド総合特区」を共同申請し、2013年2月にこの「特区」が「地域活性化総合特区」の1つとして国（日本政府）に認定された。特区制度は日本政府が経済成長戦略として力を入れている制度革新で、九州がアジア観光特区として認定されることによって、規制緩和や九州とアジアの連携の促進によって、アジアの成長活力をより緊密な形で九州に取り入れることが期待できる。

こうした中央政府・地方自治体・民間関連企業の連携によって、最近の10数年間に、訪日外国人旅行者は着実に増加しつつある。特に、2012年以降、アベノミクスの「3本の矢」の1つである「大胆な金融緩和」政策の実施に伴う急速な円安の効果もあって、訪日外国人旅行者が急増するようになっている。しかし、三大都市圏や北海道など一部の地域と比べ、九州を含む多くの地方圏では、訪日外国人旅行者が増えつつあるとはいえ、期待されたほどの伸びはなく、その経済効果も十分に現れていない。九州は、日本の最大の観光市場となっている東アジアに近いにもかかわらず、宿泊ベースの統計では訪日外国人旅行者全体に占める九州訪問客の割合はまだ1割未満になっており、特に訪日中国人旅行者全体に占める訪九中国人旅行者の割合はまだ4%弱にとどまっている（国土交通省観光庁、2016）。その原因の1つは、アジア地域からの訪日外国人旅行者の旅行行動（目的地選択行動、交通選択行動、宿泊行動、買い物行動など）はまだ十分把握・理解されていないのではないかと考えられる。

本稿は、2016年11月に実施した佐賀空港の上海便の利用者を対象とした聞き取り調査に基づき、アンケートデータを集計した上で、訪日中国人旅行者の特徴と旅行行動の傾向を探り、佐賀地域、あるいは九州地域における効果的なインバウンドの推進策に繋げる足掛かりを得るものである。本稿は4節で

構成されている。次節では、訪日中国人旅行者の旅行先など旅行動向の特徴を考察する。第3節では、佐賀空港における上海便の利用者を対象とした聞き取り調査の集計結果を紹介する。最後に第4節では、本稿の考察をもとに、訪日中国人旅行者のさらなる誘致に向けて、佐賀地域、あるいは九州地域に提案を示したい。

2. 訪日中国人旅行者の動向

アンケートデータの集計に先立って、国土交通省観光庁『宿泊旅行統計調査』に基づき、訪日中国人旅行者の動向を見ていく。表1は、2010年と2016年における国籍・地域別の訪日外国人旅行者の訪問先（宿泊先＝従業者数10人以上の施設）に関して、外国人延べ宿泊数、中国（中国本土を指す）、香港、台湾を取り上げて、運輸局別（九州は県別）にまとめたものである。なお、延べ宿泊者数＝宿泊者数×1人当たり平均宿泊数である。香港と台湾は、参考のために取り上げている。

表1a 訪日外国人旅行者の訪問先別の延べ宿泊者数（単位：100人）

	外国人延べ宿泊数		中国（本土）		香港		台湾	
	2010	2016	2010	2016	2010	2016	2010	2016
北海道運輸局	20,554	61,195	2,961	14,680	4,329	7,004	4,915	13,741
東北運輸局	5,054	6,410	438	858	653	298	1,346	2,429
関東運輸局	127,649	237,416	23,262	66,128	7,580	12,112	12,273	28,625
北陸信越運輸局	6,608	18,741	675	2,258	663	2,141	2,062	6,249
中部運輸局	20,106	47,437	6,226	23,714	704	2,695	2,869	5,666
近畿運輸局	51,798	164,298	9,442	44,637	3,492	14,555	5,789	27,839
中国運輸局	3,780	12,353	438	1,376	38	1,309	225	1,498
四国運輸局	1,248	5,264	122	792	35	886	217	1,367
九州運輸局	19,010	52,926	1,170	6,515	467	6,543	2,669	10,338
福岡県	6,173	25,738	591	3,200	224	3,089	947	4,983
佐賀県	383	2,416	34	472	8	157	31	336
長崎県	3,610	5,919	218	636	66	316	853	1,195
熊本県	3,313	5,079	115	802	67	628	288	1,243
大分県	3,632	7,195	114	693	34	577	131	1,024
宮崎県	640	2,206	15	94	18	494	202	478
鹿児島県	1,260	4,372	82	618	49	1,283	217	1,080
沖縄総合事務局	4,423	34,635	358	7,392	1,178	4,505	1,226	8,490
合計	260,230	640,675	45,091	168,349	19,137	52,046	33,590	106,240

出所：国土交通省観光庁『宿泊旅行統計調査』（各年版）

表 1b 訪日外国人旅行者の訪問先別の延べ宿泊者数の比率（単位：％）

	外国人延べ宿泊数		中国（本土）		香港		台湾	
	2010	2016	2010	2016	2010	2016	2010	2016
北海道運輸局	7.90	9.55	6.57	8.72	22.62	13.46	14.63	12.93
東北運輸局	1.94	1.00	0.97	0.51	3.41	0.57	4.01	2.29
関東運輸局	49.05	37.06	51.59	39.28	39.61	23.27	36.54	26.94
北陸信越運輸局	2.54	2.93	1.50	1.34	3.47	4.11	6.14	5.88
中部運輸局	7.73	7.40	13.81	14.09	3.68	5.18	8.54	5.33
近畿運輸局	19.90	25.64	20.94	26.51	18.25	27.97	17.23	26.20
中国運輸局	1.45	1.93	0.97	0.82	0.20	2.51	0.67	1.41
四国運輸局	0.48	0.82	0.27	0.47	0.18	1.70	0.65	1.29
九州運輸局	7.31	8.26	2.59	3.87	2.44	12.57	7.95	9.73
福岡県	2.37	4.02	1.31	1.90	1.17	5.93	2.82	4.69
佐賀県	0.15	0.38	0.08	0.28	0.04	0.30	0.09	0.32
長崎県	1.39	0.92	0.48	0.38	0.35	0.61	2.54	1.12
熊本県	1.27	0.79	0.26	0.48	0.35	1.21	0.86	1.17
大分県	1.40	1.12	0.25	0.41	0.18	1.11	0.39	0.96
宮崎県	0.25	0.34	0.03	0.06	0.10	0.95	0.60	0.45
鹿児島県	0.48	0.68	0.18	0.37	0.26	2.46	0.65	1.02
沖縄総合事務局	1.70	5.41	0.79	4.39	6.15	8.66	3.65	7.99
合計	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00

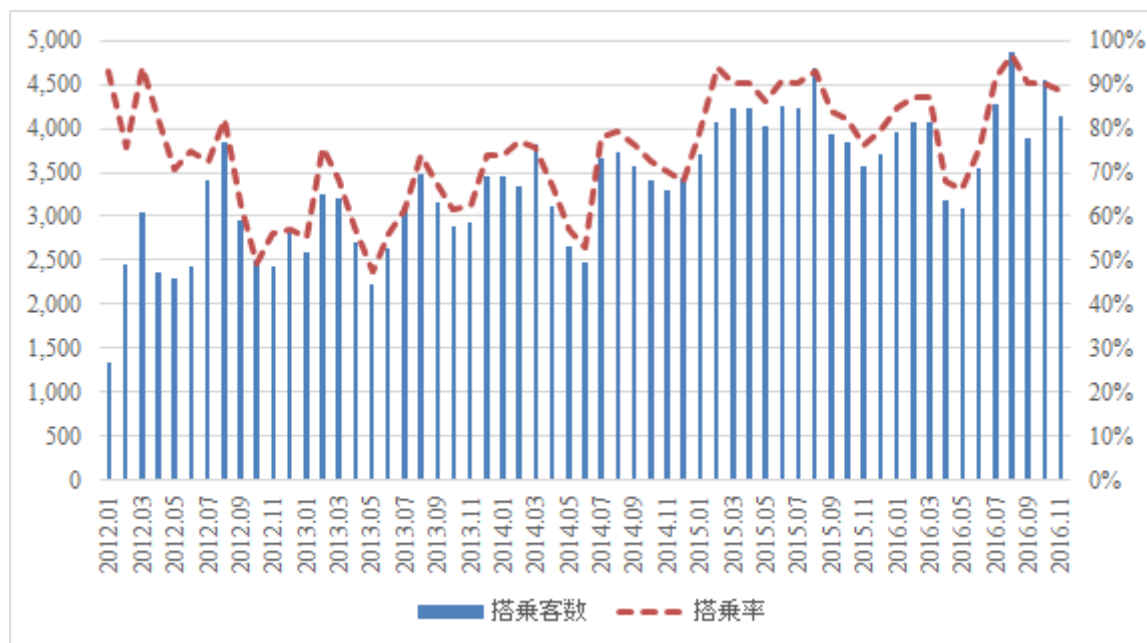
出所：国土交通省観光庁『宿泊旅行統計調査』（各年版）

2010 年も 2016 年と同様で、大枠、旅行者の出発地に関係なく、関東や近畿に最も集中していることがわかる。訪日中国人宿泊者数は、もともと九州の値が低く、それでも沖縄を上回っていたが、2013 年以降、沖縄の値が九州の値を上回っている。九州地域の県別の傾向は、2010 年も 2016 年と同様で、大枠、旅行者出発地に関係なく、福岡県に集中していることがわかる。一方で、訪日中国人旅行者の宿泊者数は、福岡県の値が高くなっているのに対して、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県も値を上げている。2010 年時点で、佐賀空港に国際線（定期便）は就航していなかったため、2012 年 1 月からの春秋航空の就航が一定の効果を発揮しているものと考えられる。

図 1 は、佐賀空港における上海便（春秋航空）の搭乗客数と搭乗率の推移を示している。就航開始から 2014 年夏までの間に、日中間の政治的な緊張によって、搭乗客数、搭乗率ともに低迷していたが、日中首脳会談が行われた 2014 年秋以降は、熊本大震災が起きた 2016 年 4 月直後の 3 ヶ月を除けば、総じて上昇傾向で安定的に推移している。ただし、今後の訪日中国人旅行者の見通しは、両国間政治関係の不安定な状況が続いているため、その影響は無視できない。一方で、観光立国戦略のもと日本の観光開

連の官民一体の努力、さらには、中国の国民所得の持続的な上昇など内外の要因を総合的に考えると、外交摩擦、地震など自然災害、疫病などによる一時的なショックがあっても、沿海都市部の中高所得層を中心に訪日中国人旅行者は引き続き伸びる余地が大きいと考えられる。

図1 佐賀空港における上海便の搭乗客数と搭乗率（単位：人、％）



出所：佐賀県（九州佐賀国際空港）HP（<http://www.pref.saga.lg.jp/airport/kiji00313080/index.html>）

3. 調査概要

3.1 上海便の利用者の特徴

調査対象は、2016年11月時点で、佐賀空港に週3便（月、水、土）運航している中国の格安航空会社（LCC：Low Cost Career）の春秋航空のインバウンド旅行者である。運航ダイヤは、上海（浦東）8時45分発、佐賀11時20分着が折り返し、佐賀12時55分発、上海（浦東）13時50分着となっている。

今回の調査では、通常のインバウンド旅行者の動向を見るために、例年10月下旬から11月上旬に約1週間かけて開催される佐賀インターナショナルパルーンフェスタの時期を避けている。2016年11月19日（土）、23日（水・祝）に、佐賀空港の制限区域（搭乗待合室）において、佐賀ターミナルビル株式会社の協力のもと、筆者らと中国人留学生4名によって対面式の聞き取り調査を実施した。1回目の11月19日（土）に37票（搭乗客数167人、回収率22.2%）、2回目の11月23日（水・祝）に41票（搭乗客数134人、回収率30.1%）、合計78票の有効回答を得ることができた。1回目と2回目の年齢と職業を取り上げて、それぞれの平均の差の検定（t検定）を行ったが、1回目と2回目に差があるとはいえないことが確認できたため、以下、2回の調査をあわせて見ていく。

回答者の性別は、男性27名、女性50名で女性の方が多かった。表2～7は、アンケート回答者の（1）年齢分布、（2）職業分布、（3）中国国内の居住地分布、（4）訪日目的、（5）日本と佐賀への訪問回数、

及び、佐賀空港の利用回数、(6) 過去の日本旅行の訪問先 に関して簡易集計を行った結果である。これらの表から、以下のことが読み取れる。

(1) 回答者の年齢分布は、30代が38人(48.72%)で最大であり、以下、60代の12人(15.38%)、40代と50代の10人(12.82%)が同数で続いている(表2)。平均年齢は40.7歳であった。

表2 アンケート回答者の年齢分布

	人数	%
10～20代	8	10.26
30代	38	48.72
40代	10	12.82
50代	10	12.82
60代	12	15.38
70代	0	0.00
80代以上	0	0.00
無回答	0	0.00
合計	78	100.00

出所：アンケートデータに基づき筆者作成

(2) 回答者の職業分布は、民間企業が41人(52.56%)で最大であり、以下、退職者の11人(14.10%)、自営業者の7人(8.97%)が続いている(表3)。

表3 アンケート回答者の職業分布

	人数	%
①民間企業	41	52.56
②自営業	7	8.97
③大学・研究機関	0	0.00
④公務員(公的機関を含む)	4	5.13
⑤自由職業者	4	5.13
⑥学生	1	1.28
⑦退職者	11	14.10
⑧その他	7	8.97
⑨無回答	3	3.85
合計	78	100.00

出所：アンケートデータに基づき筆者作成

(3) 回答者の居住地分布は、出発空港所在地の上海が 62 人 (79.49%) で最大であり、以下、内陸の河南省の 4 人 (5.13%)、上海に隣接する江蘇省の 4 人 (5.13%) と浙江省の 2 人 (2.56%) が続いている (表 4)。江蘇省と浙江省は、いずれも日本への直行便が就航する空港 (南京国際空港、杭州国際空港) があるとはいえ、両省からの国際旅行客の多くは、上海浦東空港を利用している。本調査では、この両省の居住者の比率が予想より低い。一方、人口大省河南省 (総人口約 1 億人) は、上海から離れているが、同省居住者の比率が上海居住者に次ぐ 2 位になっている。偶然の可能性もあるが、九州を訪問したい河南省の住民にとっては、もともと上海浦東空港を経由する選択がベストで、上海ー福岡線と比べて、上海ー佐賀線は少なくとも「コストが安い」というメリットがあると考えられる。

表 4 アンケート回答者の居住地分布

	人数	%
上海市	62	79.49
江蘇省	4	5.13
浙江省	2	2.56
福建省	1	1.28
安徽省	0	0.00
山東省	1	1.28
北京市	1	1.28
遼寧省	1	1.28
河南省	4	5.13
湖南省	1	1.28
無回答	1	1.28
合計	78	100.00

出所：アンケートデータに基づき筆者作成

(4) 回答者の訪日目的は、観光 (個人旅行) が 52 人 (66.67%) で最大であり、以下、観光 (団体旅行) の 12 人 (15.38%)、家族・友人訪問の 7 人 (8.97%) が続いている (表 5)。観光 (個人旅行) と観光 (団体旅行) を合わせると 64 人 (82.05%) となることから、回答者の訪日目的の大部分は観光であることがわかる。国際的な企業、大学・研究機関、さらには行政機関が集中している三大都市圏を訪問する訪日中国人旅行者と比べて、今回のアンケート調査の回答は、ビジネス出張の比率がかなり低くなっている。

表5 アンケート回答者の訪日目的

	人数	%
①観光（団体旅行）	12	15.38
②観光（個人旅行）	52	66.67
③ビジネス出張	4	5.13
④家族・友人訪問	7	8.97
⑤その他	2	2.56
⑥無回答	1	1.28
合計	78	100.00

出所：アンケートデータに基づき筆者作成

(5) 表6にあるように、回答者の日本への旅行回数は、5回以上が17人（21.79%）で最大であり、以下、2回の15人（19.23%）、3回と1回（初めて）の14人（17.95%）が同数で続いている。即ち、回答者の約8割が初めての訪日旅行ではないと読み取れる。一方、佐賀への旅行回数は、1回（初めて）が62人（79.49%）で最大であり、以下、2回の7人（8.97%）、3回の4人（5.13%）が続いている。即ち、回答者の8割近くが初めて佐賀を訪問したことが読み取れる。

佐賀空港の利用回数は、1回（初めて）が52人（66.67%）で最大であり、2回の14人（17.95%）、3回と4回の3人（3.85%）が続いている。ただし、「2回以上利用した」と答えた者の比率が3割近くになっており、先述した「回答者の8割近くが初めて佐賀を訪問した」という回答結果と整合的ではない。おそらく、一部の回答者は、佐賀空港への「離」、「着」を別々で利用回数として数えたかもしれない。

表6 アンケート回答者の日本と佐賀への訪問回数、及び、佐賀空港の利用回数

	日本		佐賀		佐賀空港	
	人数	%	人数	%	人数	%
1回	14	17.95	62	79.49	52	66.67
2回	15	19.23	7	8.97	14	17.95
3回	14	17.95	4	5.13	3	3.85
4回	5	6.41	2	2.56	3	3.85
5回以上	17	21.79	0	0.00	1	1.28
10回以上	8	10.26	1	1.28	1	1.28
20回以上	1	1.28	0	0.00	0	0.00
無回答	4	5.13	2	2.56	4	5.13
合計	78	100.00	78	100.00	78	100.00

出所：アンケートデータに基づき筆者作成

(6) 表6で見たように、78人の内14人が、今回、初めての日本旅行である。無回答を含む残りの60人に関して、(今回の旅行先を除く)過去の日本旅行の訪問先を見てみると、関西の53人が最大であり、以下、九州の43人、関東の33人、北海道と沖縄の11人が同数で続いている(表7)。九州の43人の内訳は、福岡県が18人で最大であり、以下、熊本県の11人、長崎県の7人、大分県の5人が続いている。ただし、注意すべきことは、「九州」を訪ねたことのある地域として選択した答えの中に、間違っって今回の訪問も含まれている可能性がある。

表7 過去の日本旅行の訪問先(複数回答)

地域	延べ人数
北海道	11
東北	1
関東	33
北信越・東海	6
関西	53
中四国	7
九州	43
沖縄	11

出所：アンケートデータに基づき筆者作成

3.2 日本旅行における交通手段と観光経路の選択行動

3.1節で見たように、佐賀空港における78人の調査対象者の内、過去に佐賀を訪問したことがあるのは2割程度であるが、日本を訪問したことがあるものは約8割に達している。今回、佐賀空港の制限区域(搭乗待合室)における聞き取り調査なので、78人ともに出国空港は佐賀空港である。78人の入国空港を見ると、佐賀空港が66人で最大であり、以下、福岡空港の5人、東京(成田空港か羽田空港)と茨城の2人が同数で続き、3人は無回答であった。

それでは、なぜ佐賀空港を選択したのであろうか。日本旅行において、彼ら(彼女ら)はどのような観光経路や交通手段を選択したのであろうか。表8~11は、アンケート回答者の(1)佐賀空港を利用した理由、(2)今回の旅行先、(3)今回の佐賀県内の旅行先、(4)交通選択 に関して簡易集計を行った結果である。これらの表から、次のことがわかる。

(1)佐賀空港を利用した理由(複数回答)は、「航空運賃が安い」と答えるものが48人で最大であり、以下、「佐賀空港から目的地へのアクセスが便利」の19人、「フライトスケジュールが便利」の10人が続いている(表8)。これらの答えから、低価格・地域密着型のLCC事業を積極的に誘致している佐賀空港の主な魅力がわかる。

表 8 アンケート回答者が佐賀空港を利用した理由（複数回答）

	延べ人数
①航空運賃が安いから	48
②フライトスケジュールが便利だから	19
③佐賀空港から目的地へのアクセスが便利だから	30
④パッケージプランに含まれているから	10
⑤佐賀空港の居心地の良さ	1
⑥その他	8

出所：アンケートデータに基づき筆者作成

(2) 回答者の今回の旅行先は、ほとんど九州地域内各県である。特に佐賀空港と福岡空港から入国した 71 人の内、九州地域外（四国）を訪問したのは 2 人しかない。両空港は「九州」の国際空港であるという性格が明らかである。なお、九州各県への延べ訪問者数は、空港・駅を含むと佐賀が最大であるが、空港を除くと、福岡県が 67 人で最大である。以下、大分県の 55 人、熊本県の 29 人、佐賀県の 20 人が続いている（表 9）。九州の商業・文化の中心地である福岡県と 2 つの国際的に著名な温泉の町（別府・湯布院）を持つ大分県は突出している他、2016 年に大地震が発生した熊本も健闘しているといえる。一方、空港所在地の佐賀県は、まだ“通過地”に過ぎないと見られる。また、空間距離と交通アクセスの影響で、佐賀空港を利用した 78 人の訪日中国人旅行者の内、宮崎県と鹿児島を訪問したものはそれぞれ 1 人と 0 人となっていた。

表 9 九州 7 県における旅行先の延べ人数（複数回答）

	空港を含む	空港を除く
福岡県	72	67
佐賀県	164	20
長崎県	17	17
大分県	64	55
熊本県	29	29
宮崎県	1	1
鹿児島県	0	0

出所：アンケートデータに基づき筆者作成

(3) 表 10 は、今回の旅行で訪問した佐賀県内の地域（訪問地）を集計したものである。今回の旅行期間中に、全回答者 78 人の内、63 人が佐賀県内（7 つの主要観光地など）を訪れている。訪問地別を見ると、佐賀市（JR 駅・バスセンターと佐賀城など）が 35 人で最大であり、以下、武雄市（温泉）の 12 人、嬉野市（温泉）の 9 人が続いている。ただし、全回答者 78 人の内、25 人は佐賀県内のど

こも訪問しなかったと答えている。総じて、市の中心部と温泉町の人気が比較的に高いが、他の市内観光地の集客力はまだかなり弱いとみられる。

表 10 アンケート回答者の訪問地（複数回答）

訪問地（主要な観光資源）	延べ人数
①佐賀市（佐賀城など）	35
②唐津市（唐津城・呼子など）	7
③武雄市（温泉）	12
④嬉野市（温泉）	9
⑤鹿島市（祐徳稲荷神社など）	3
⑥吉野ヶ里町（遺跡）	1
⑦有田町	2
⑧その他	14
⑨訪問していない	25

出所：アンケートデータに基づき筆者作成

(4) 表 11 は、日本到着後、今回の旅行で利用した交通機関を集計したものである。電車が 53 人で最大であり、以下、路線バスの 41 人、貸切・観光バスの 20 人、タクシーの 18 人が続いている。全回答者 78 人の内、約 8 割が個人旅行なので（表 5）、団体客向けの貸切・観光バスの利用者の割合は 4 分の 1 程度にとどまっているに対して、電車など他の交通手段の利用者の割合が高くなっている。ちなみに、電車の利用者の内、JR 九州レールパスの利用者は 23 人であった。また、レンタカーを利用した者も 6 人いることは、個人旅行の割合の上昇に伴う興味深い変化である。

表 11 アンケート回答者の移動手段（複数回答）

移動手段	延べ人数
①電車	53
②貸切・観光バス	20
③高速バス	12
④路線バス	41
⑤タクシー	18
⑥レンタカー	6
⑦レンタサイクル	2
⑧その他	14

出所：アンケートデータに基づき筆者作成

3.3 日本旅行における宿泊行動と買物行動

観光において宿泊行動と買物行動は、旅行先の経済に直接的な消費効果を与える選択である。表 12～14 は、アンケート回答者の (1) 今回の旅行の宿泊地、(2) 今回の旅行の宿泊期間、(3) 今回の旅行における購入品 に関して簡易集計を行った結果である。これらの表から、次のことがわかる。

(1) 表 12 は、今回の旅行の宿泊地を集計したものである。宿泊場所（所在県）は、全回答者 78 人の内、佐賀県（佐賀市を含む）の 53 人が最大であった。以下、福岡県の 42 人、大分県の 32 人、熊本県の 24 人が続いている。この結果は、回答者の今回の旅行先分布とほぼ一致している。

表 12 アンケート回答者の宿泊地（複数回答）

宿泊地	延べ人数
①佐賀市	37
②佐賀県（佐賀市を除く）	16
③福岡県	42
④長崎県（ハウステンボスなど）	13
⑤大分県（別府、湯布院など）	32
⑥熊本県（阿蘇、黒川など）	24
⑦その他	7

出所：アンケートデータに基づき筆者作成

(2) 表 13 は、今回の旅行の宿泊期間を集計したものである^(注1)。回答者の宿泊期間は、5～9 泊の 31 人（39.74%）が最大であった。以下、4 泊の 18 人（23.08%）、3 泊の 13 人（16.67%）が続いている。10 泊以上の回答者も 12 人（15.38%）いる。九州は豊かな自然観光資源を有し、宿泊コストも三大都市圏と比べて安いので、滞在期間の長い体験型観光の成長の余地が大きいと考えられる。

表 13 アンケート回答者の宿泊期間

	人数	%
2 泊	3	3.85
3 泊	13	16.67
4 泊	18	23.08
5～9 泊	31	39.74
10～19 泊	7	8.97
20 泊以上	5	6.41
無回答	1	1.28
合計	78	100.00

出所：アンケートデータに基づき筆者作成

(3) 表 14 は、今回の旅行における購入品を集計したものである。旅行期間中に購入した商品の種類は豊富多様であるが、安全性と効能が評価されている「薬品、化粧品」の購入者が 59 人で最大であった。以下、食料品の 48 人、地域特産品の 41 人、雑貨品の 40 人、衣料品の 28 人、電化製品の 14 人が続いている。購買欲は依然旺盛であるが、人気商品は明らかに電化製品から薬品、化粧品などへ転換しているとみられる。

表 14 アンケート回答者の購入品（複数回答）

購入品	延べ人数
①電化製品	14
②薬品、化粧品	59
③衣料品	28
④食料品	48
⑤雑貨品	40
⑥地域特産品	41
⑦その他	1

出所：アンケートデータに基づき筆者作成

3.4 九州（佐賀）観光における上海便の利用者の要望から見る課題

本小節では、佐賀地域の観光における仁川便の利用者の要望から課題を見ていく。表 15～19 は、アンケート回答者の (1) 情報収集に役立ったもの（訪日前）、(2) 情報収集に役立ったもの（訪日後）、(3) 旅行中に不便を感じたこと、(4) 旅行中に印象に残ったこと・良かったこと、(5) 佐賀地域への再訪意向 に関して簡易集計を行った結果である。これらの表から、次のことがわかる。

(1) 表 15 は、今回の旅行にあたって、訪日前に母国で旅行先の情報収集を行った際、役に立ったものを集計したものである。

1 番目に役立ったものを見ると、インターネット検索（日本の行政など公共機関の HP）が 12 人で最大であり（「その他」を除く）、以下、友人・知人の紹介の 10 人、母国の旅行会社の 9 人、インターネット検索（日本の JR やホテルなど民間企業の HP）の 9 人が続いている。2 番目に役立ったものを見ると、インターネット検索（日本の JR やホテルなど民間企業の HP）の 17 人が最大であり、以下、友人・知人の紹介の 10 人、SNA の 7 人が続いている。3 番目に役立ったものを見ると、SNS が 8 人で最大であり、以下、友人・知人の紹介の 6 人、インターネット検索（日本の JR やホテルなど民間企業の HP）の 5 人が続いている。

訪日前の情報ソースは、大きく出発地（母国）側からのものと目的地（日本）側からのものに分けることができるが、個人旅行者が約 8 割を占めている回答者たちにとって、訪日前の旅行行動では、目的地（日本）側の行政など公共機関の HP、JR やホテルなど民間企業の HP を通じて、旅行関連の情報収集を行っているため、これらの HP からの情報発信が重要な役割をはたしていることがわかる。加えて、

友情を重んじる訪日中国人旅行者にとって、友人・知人の紹介も重要な情報源になっていることがわかる。

表 15 情報収集に役立ったもの（訪日前）

	人数			%		
	1 番目	2 番目	3 番目	1 番目	2 番目	3 番目
①TV やラジオ	5	0	0	6.67	0.00	0.00
②ガイドブック	8	3	1	10.67	5.66	4.17
③母国の旅行会社	9	2	1	12.00	3.77	4.17
④インターネット検索 （日本の行政など公共機関の HP）	12	4	0	16.00	7.55	0.00
⑤インターネット検索 （日本の JR やホテルなど民間企業の HP）	9	17	5	12.00	32.08	20.83
⑥SNS	4	7	8	5.33	13.21	33.33
⑦友人・知人の紹介	10	10	6	13.33	18.87	25.00
⑧その他	18	10	3	24.00	18.87	12.50
合計	75	53	24	100.00	100.00	100.00

出所：アンケートデータに基づき筆者作成

(2) 表 16 は、今回の旅行にあたって、訪日後（滞在中）に日本で旅行先の情報収集を行った際、役に立ったものを集計したものである。

1 番目に役立ったものを見ると、出発前に用意されたガイドブックが 12 人で最大であり、以下、インターネット検索（日本の行政など公共機関の HP）と友人・知人の紹介の 10 人が同数で、インターネット検索（日本の JR やホテルなど民間企業の HP）の 7 人が続いている。2 番目に役立ったものを見ると、インターネット検索（日本の JR やホテルなど民間企業の HP）が 13 人で最大であり、以下、インターネット検索（日本の行政など公共機関の HP）の 5 人、友人・知人の紹介、観光案内所、観光パンフレットの 3 人が同数で続いている。3 番目に役立ったものを見ると、SNS が 5 人で最大であり、以下、インターネット検索（日本の JR やホテルなど民間企業の HP）と友人・知人の紹介の 3 人が同数で続いている。

これらのことから、訪日後の旅行行動でも、目的地（日本）側の行政など公共機関の HP、JR やホテルなど民間企業の HP を通じて、情報収集を行っているため、これらの HP からの情報発信が重要な役割をはたしていることがわかる。加えて、ガイドブックや友人・知人の紹介、観光案内所、観光パンフレットを媒介とした情報発信も重要な役割をはたしている。受け入れ側（日本側）としては、信用力が高いとみられる公共機関や民間企業の HP からの情報発信に意義があることが確認できた。

表 16 情報収集に役立ったもの（訪日後）

	人数			%		
	1 番目	2 番目	3 番目	1 番目	2 番目	3 番目
①ガイドブック	14	1	0	19.18	2.56	0.00
②観光パンフレット	5	3	1	6.85	7.69	6.67
③観光案内所	3	3	1	4.11	7.69	6.67
④インターネット検索 （日本の行政など公共機関の HP）	10	5	1	13.70	12.82	6.67
⑤インターネット検索 （日本の JR やホテルなど民間企業の HP）	7	13	3	9.59	33.33	20.00
⑥SNS	2	2	5	2.74	5.13	33.33
⑦友人・知人の紹介	10	3	3	13.70	7.69	20.00
⑧その他	22	9	1	30.14	23.08	6.67
合計	73	39	15	100.00	100.00	100.00

出所：アンケートデータに基づき筆者作成

(3) 表 17 は、今回の旅行中に不便を感じたことを集計したものである。「言語（案内表記）」が 32 人で最大であり、以下、「交通機関」の 11 人、「手荷物預かり所」の 7 人、「通信環境（Wi-Fi）」の 5 人が続いている。多言語表記については、福岡市や別府市など観光先進都市を除くと、確かに九州各地は若干遅れている。ただし、他の各項目について、総じて不便と感じている訪日中国人旅行者がかなり少ないといえる。特に通信環境（Wi-Fi）について、以前の訪日中国人旅行者の間に不便と感じたものが多かったが、最近では、九州を含む日本各地が様々な改善策を実施している他、上海空港など中国の国際空港では、海外 Wi-Fi レンタルサービスを展開しており、観光者の不便感の解消に寄与したのではないかと考えられる。

表 17 アンケート回答者が旅行中に不便を感じたこと（複数回答）

項目	延べ人数
①交通機関	11
②言語（案内表記）	32
③通信環境（Wi-Fi）	5
④観光情報	2
⑤手荷物預かり所	7
⑥その他	12

出所：アンケートデータに基づき筆者作成

(4) 表 18 は、今回の旅行で印象に残ったもの・良かったものを集計したものである。「サービス（親切）」を評価する回答者が 42 人で最大であり、以下、「景色」の 37 人、「空気」と「日本の社会秩序」の 36 人が同数で、「食事がおいしい（グルメ）」の 34 人が続いている。この結果は、訪日中国人旅行者の一般的な感觸とほぼ一致しているといえる。ただし、「日本文化」や「有名な店」、「都市や農村での体験」などは、あまり回答者の印象に残っておらず、九州旅行におけるこうした体験機会はまだ少ないことを示唆している。

表 18 アンケート回答者の印象に残ったもの・良かったもの（複数回答）

項目	延べ人数
①景色	37
②空気	36
③食事がおいしい	34
④有名店	5
⑤サービス（親切）	42
⑥日本文化	15
⑦日本の社会秩序	36
⑧都市や農村での体験	14
⑨その他	0

出所：アンケートデータに基づき筆者作成

(5) 最後の表 19 は、佐賀地域への再訪意向の回答を集計したものである。「来たい」が 33 人（42.31%）で最大であり、以下、「やや来たい」の 20 人（24.53%）、「どちらとも言えない」の 9 人（11.54%）、「あまり来たくない」の 3 人（5.13%）が続いている。「来たい」と「やや来たい」を合わせると 53 人（全体の 67.95%）が佐賀地域への再訪意向を示している。

表 19 アンケート回答者の佐賀地域への再訪意向（複数回答）

	人数	%
①来たい	33	42.31
②やや来たい	20	25.64
③どちらとも言えない	9	11.54
④あまり来たくない	4	5.13
⑤来たくない	4	5.13
無回答	8	10.26
合計	78	100.00

出所：アンケートデータに基づき筆者作成

表 20 は、国土交通省観光庁が実施した訪日中国人旅行者の再訪意向に関する調査の抜粋である。この調査では、全体の約 9 割強が再訪意向を示しているが、これと比較してみると、佐賀への再訪意向は幾分低いといえる。

表 20 訪日中国人旅行者の訪日旅行に関する意識 (2016 年 (平成 28 年) 暦年)

調査項目	満足度／再訪意向	回答数	選択率 (%)
訪日旅行全体の満足度	大変満足	2,865	46.5
	満足	2,757	44.6
	やや満足	405	6.6
	普通	103	1.7
	やや不満	15	0.2
	不満	14	0.3
	大変不満	8	0.1
	合計	6,167	100.0
日本への再訪意向	必ず来たい	3,666	59.7
	来たい	1,938	31.6
	やや来たい	245	4.0
	何ともいえない	219	3.6
	あまり来たくない	30	0.5
	来たくない	30	0.5
	絶対来たくない	4	0.1
	合計	6,132	100.0

出所：国土交通省観光庁 (2017a)

もちろん、一般的には、訪問先の地域範囲が狭いほど、観光資源の多様性が減り、観光客の「再訪したい」意欲は低くなるが、佐賀県は空港後背地の九州各県と連携して、域内の観光魅力を高め、もっと積極的に海外へ PR しなければならない。

4. おわりに

本稿では、2016 年 11 月に実施した佐賀空港の上海便の利用者を対象とした聞き取り調査 (アンケートデータ) に基づき、訪日中国人旅行者の特徴と旅行行動を考察してきた。

佐賀地域を旅行した訪日中国人旅行者は、大枠、旅行中に不便を感じたことは少ないようである。しかし、特別に満足しているという評価も多くない。“良い旅行”だと評価しながらも、再び佐賀地域を訪問したいと答える訪問者の割合は、やや低いとみられる。今回の調査結果を踏まえて、佐賀空港にお

ける訪日中国人旅行者の旅行行動を佐賀県の経済活動に繋げていくためには、以下の5点を押さえていく必要があるのではないだろうか^(注2)。

(1) 佐賀地域の観光資源のPR方法を工夫し、主要な観光スポットの知名度を上げる必要がある。国際観光の旅行先選択行動において、目的地の知名度は常に決定的な影響を与えている。三大都市圏と比べて、佐賀地域を含む九州地域の国際的な知名度はかなり低い(戴、2012; 戴、2016)。佐賀地域には、温泉・海・山の他、古代中国から日本への壮大な人的交流を想像させる「徐福上陸遺跡」(佐賀市徐福長寿館(2012))があり、映画やドラマのロケ地にもなり得るところがある。佐賀地域へのインバウンド旅行者を増やすために、佐賀地域でしか見ることができないこと、体験できないこと、そして、美しい自然環境をキーワードに、インパクトの高い観光広告を考案する必要がある。

さらに、効果的なPRを行うためには、亀山・侯(2016)でも指摘されているように、信用力が高いとみられる行政などの公共機関が先頭に立ち、中国をはじめとする海外市場国へ情報発信を積極的に行うことも重要であろう。それと同時に、佐賀と九州を訪問する中国人客の多くが訪日リピーターであることを考えると、国内の三大都市圏の空港、駅、人気観光スポットおよびこれらの地域の関連ホームページにおいても、佐賀と九州をPRする広告を出すことも重要であろう。

(2) 訪日中国人旅行者をはじめとするアジアからの訪日外国人旅行者に共通する根強いお土産文化とショッピング需要に沿って、多言語の表記を増やして、買い物しやすい環境を整備する。今後、県内主要地域で日本製の人気商品と地域特色を反映できる観光記念品を集中的に購入できる商業施設の増設と効果的な運営が必要である。また、海外の金融機関と提携し、中国の「銀聯」カードなど外国クレジットカードが利用できる施設を増やす必要がある。

(3) 「爆買い」旅行から体験型旅行へ変化しつつある流れに沿って、アジアからの訪日外国人旅行者に九州で長く滞在してもらうために、九州の独特な観光資源と美しい自然環境、そして、低い人口密度・低い滞在コストなどの地域特性を活かして、九州修学旅行、ホームステイ、九州グルメめぐり、スポーツ合宿、医療観光といった体験・滞在型観光の海外市場を積極的に開拓し、魅力の高い観光拠点・観光コースを造成する必要がある。

(4) 滞在・体験型観光客の大幅な増加を見据え、個別な観光スポット・観光コースだけでなく、地域全体の対応が必要とされる「全域観光戦略」を構築する必要がある。観光客を積極的に誘致するだけでなく、法規・交通ルール・文化慣習の違いなどに起因する観光客と住民の摩擦の増加への対応も強化する必要がある。

(5) 旅行者の訪日形態が「団体観光が中心」から「個人観光が中心」への転換に伴い観光客への定期的な聞き取り調査や観光客の旅行行動に関するビッグデータを活用し、旅行者の個人属性別による観光行動への影響を重視し、観光市場を細分化して効果的に開拓する。

国土交通省観光庁の発表によると、2016年に訪日外国人旅行者が2,400万人を超え、2015年の2,000万人弱から20%の大幅増となった(国土交通省観光庁、2017b)。国際観光市場を取り巻く環境の変化と近年訪日外国人客の増加トレンドを踏まえ、日本政府は訪日外国人旅行者の人数目標を引き上げ、「2020年に4,000万人に、2030年に6,000万人とする」ことを決めている(日本政府、2016)。挙国体制で「観光立国」戦略が推進される中、九州や佐賀地域を訪問しようという訪日中国人旅行者の規模はさらに拡

大していく可能性が高い。ただし、注意すべきは、過去の動向からわかるように、中国や韓国などからの訪日外国人旅行者の規模は、外交摩擦、災害、疫病といったショックに大きく影響されてきた。好調なインバウンド観光産業の持続的な成長を確保するためには、各分野の人的国際交流と相互理解を引き続き推進するとともに、突発事件に対する危機管理を重視しなければならない。

注

(注1) 1泊の回答者は0人であった。

(注2) この辺りの議論の詳細は、戴 (2012)、戴 (2016) をあわせて参照されたい。

参考文献

- 亀山嘉大・侯鵬娜 (2016) 「インバウンドの拡大と地方公共団体の情報発信—中四国・九州地域の事例から—」『経済地理学年報』62 (3)、pp. 191-209.
- 国土交通省観光庁 (各年版) 『宿泊旅行統計調査』 (<http://www.mlit.go.jp/kankocho/siryou/toukei/shukuhakutoukei.html>)
- 国土交通省観光庁 (2016) 『訪日外国人消費動向調査 2015 年年間値 (確報)』 (<http://www.mlit.go.jp/kankocho/siryou/toukei/shouhidoukou.html>)
- 国土交通省観光庁 (2017a) 「国籍・地域 (21 区分) 別訪日旅行に関する意識 (満足度など)」『訪日外国人消費動向調査』 (<http://www.mlit.go.jp/kankocho/siryou/toukei/syouthityousa.html>)
- 国土交通省観光庁 (2017b) 『訪日外国人消費動向調査 2016 年年間値 (確報)』 (<http://www.mlit.go.jp/kankocho/siryou/toukei/shouhidoukou.html>)
- 佐賀市徐福長寿館 (2012) 「徐福百科」 (<http://www2.saganet.ne.jp/jyofuku/>)
- 戴二彪 (2012) 「訪日アジア観光客の旅行先選択行動からみた九州の医療観光戦略の課題と対策」『海峡圏研究』12、pp. 187-208.
- 戴二彪 (2016) 「訪日アジア観光客の観光地選択行動」『東アジアへの視点』27 (1)、pp. 1-20.
- 日本政府 (首相官邸) (2016) 「明日の日本を支える観光ビジョン構想会議の公表資料」(議長・安倍晋三首相) 2016 年 3 月 31 日.